

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	室内空気質小委員会	主 査 名：池田耕一 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (空気環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：赤林 伸一
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気環境に関する情報収集と検討を行う。 ・ 空気環境に関連した分野の連携、研究者育成のための啓発活動を行う。 ・ 室内空気環境の適正化に関する性能基準・規定などの情報収集・適正化に関する活動を行う。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 池田耕一(国立保健医療科学院)、野崎淳夫(東北文化学園大学大学院)、吉澤晋(国立保健医療科学院)、菅原文子(郡山女子大学)、入江建久(新潟医療福祉大学)、大場正昭(京都大学大学院)、堀 雅宏(横浜国立大学)、小竿真一郎(日本工業大学)、宮崎竹二(大阪市立環境科学研究所)、横山真太郎(北海道大学大学院)、光田恵(大同工業大学)、鍵直樹(国立保健医療科学院)、武廣絵里子(鹿島建設株式会社)、鈴木昭人(株式会社 INAX) 橋本康弘(藍野住環境研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内の臭気測定法検討 WG ・ 室内アスベスト問題汚染検討 WG 	
2008 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 傘下のWGより国内外における室内空気汚染物質に関する既存の規準類、健康影響、実測調査例、発生源や濃度測定法に関する資料収集を行った。それらに基づいて、学会規準としての室内空気汚染物質に関するアカデミックスタンダードのあり方やアカデミックスタンダードの具体的な項目などについて更なる検討を行った。(80%)</p> <p>2. 室内空気質関連の用語の定義について、調査検討を行い、各WGの成果物への適応を図った。また、化学、材料学、医学等の各方面から講師を招き、空気環境と他分野との関わりについて、レクチャーを受けた。(80%)</p> <p>3. 新たな室内空気汚染物質による汚染防止対策や室内濃度予測手法について検討を行い、広範囲の室内空気汚染に関するアカデミックスタンダードの完成を意図した活動を行った。(80%)</p> <p>4. WGの成果公表については、作成原案に基づくシンポジウムを開催し、成果を公表した。同時に、建築学、化学、材料学、医学界を中心とした各方面のパブリックコメントを求め、成果物に反映させた(70%)。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>既刊の成果物についても改訂作業を進める事が課題である。</p>

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本委員会の活動目的は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気環境に関する情報収集と検討を行う。 ・ 空気環境に関連した分野の連携、研究者育成のための啓発活動を行う。 ・ 室内空気環境の適正化に関する性能基準・規定などの情報収集・適正化に関する活動を行う。 <p>これらについて、4年間の活動により以下の成果が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .傘下のWGより国内外における室内空気汚染物質に関する既往の規準、健康影響、実測調査例、発生源や濃度測定法に関する資料収集を行った。それらに基づいて、学会規準としての室内空気汚染物質に関するアカデミックスタンダードとそのあり方やアカデミックスタンダードの具体的な内容などについて更なる検討を行った。 2 .室内空気質関連の用語の定義について、調査検討を行い、各WGの成果物への適応を図った。また、化学、材料学、医学等の各方面から講師を招き、空気環境と他分野との関わりについて、レクチャーを受けた。 3 .新たな室内空気汚染物質による汚染防止対策や室内濃度予測手法について検討を行い、広範囲の室内空気汚染に関するアカデミックスタンダードの完成を意図した活動を行った。 4 .WGの成果公表については、作成原案に基づくシンポジウムを開催し、成果を公表した。同時に、建築学、化学、材料学、医学界を中心とした各方面のパブリックコメントを求め、成果物に反映させた。 <p>課題としては、アセトアルデヒド、トルエン、TVOCのアカデミックスタンダードの刊行に向けた早急な活動と既刊の成果物についても改訂作業を進めることが挙げられる。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。